

経営環境

国内の経済活動は持ち直しの動きを維持する一方で、未だ収束が見通せない新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の景気回復ペースは緩慢に推移するものと思われます。

こうした経済環境は、当金庫の営業地域においても例外ではなく、地域が抱える高齢化、地域人口の減少の問題や経営者の高齢化、後継者不足など、地域の中小企業は厳しい経営環境下に置かれています。

当金庫は、長期的な視点で地域・お客様に何が出来るかを常に考え、行動できる信用金庫を目指してまいります。

事業の業績

【預金積金】

期末残高は、3,891億88百万円(前期末比+187億61百万円、5.06%増加)となりました。

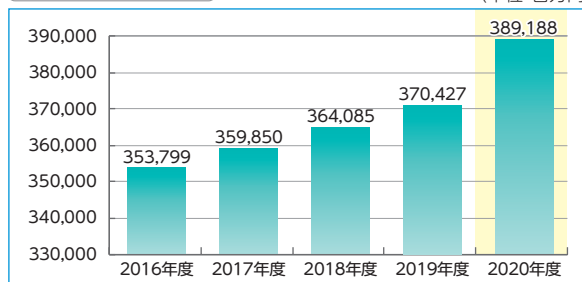
科目別残高では、要求性預金1,523億49百万円、定期性預金2,368億38百万円となり、人格別では個人預金3,341億72百万円、法人預金550億16百万円となりました。

また、期中平均残高も3,848億10百万円(前期比+171億35百万円、4.66%増加)となりました。

当金庫の経営姿勢や健全性をご理解いただき、預金残高は安定的に増加いたしました。

預金積金の推移

(単位:百万円)



【貸出金】

期末残高は、1,461億47百万円(前期末比+89億23百万円、6.50%増加)となりました。

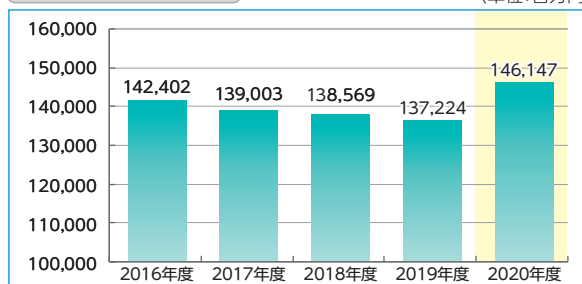
科目別残高は、割引手形7億83百万円、手形貸付158億66百万円、証書貸付1,263億87百万円、当座貸越31億10百万円となり、人格別では法人向け貸出金865億64百万円、個人向け貸出金595億83百万円となりました。

期中平均残高は1,431億85百万円(前期比+57億27百万円、4.16%増加)となりました。

今後も、当金庫のビジネスモデルである「小口先数主義」にもとづく地道な営業活動に取組むことで、地域社会の発展に貢献してまいります。

貸出金残高の推移

(単位:百万円)



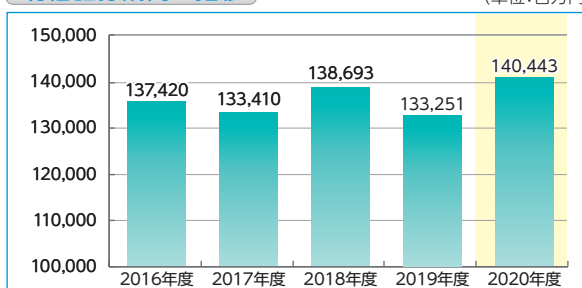
【有価証券】

期末残高は、1,404億43百万円(前期末比71億92百万円、5.39%増加)となりました。

当金庫は、厳格な基準・細則に基づき、安全性や収益性に配慮し、債券を中心とした有価証券運用を行っております。

有価証券残高の推移

(単位:百万円)



【預かり資産】

預かり資産残高(投資信託・公共債・個人年金保険・終身保険の合計)は、168億72百万円(前期末比1億68百万円、1.00%増加)となりました。

内訳としては、投資信託は、株式・リート市場の回復により、残高が増加しました。公共債・個人年金保険・終身保険については、既存契約の償還および満期到来により残高が減少しました。

当金庫では、お客さまの家計の長期・安定的な資産形成のサポートに取組んでおります。

預かり資産の推移

(単位:百万円)

